

**令和3年度
王滝村総合戦略評価報告書**

王滝村総合戦略会議

令和3年 10月

目 次

I 「玉滝村総合戦略」の評価について	1
1 趣旨	1
2 玉滝村総合戦略の進捗状況の概要	1
(1) 基本目標の進捗状況	1
(2) 重要業績評価指標（K P I）の進捗状況	2
II 各指標の進捗状況	6
1 【くらし】	
(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持	6
(2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策	9
(3) 安全なくらし	12
2 【移住・交流】	
(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進	18
(2) 下流域地域など交流の一層の充実	21
3 【産業】	
(1) 観光資源の活用による地域振興	23
(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出	27
(3) 地域に根ざした産業の振興	29
4 【子育て・福祉】	
(1) 子育てにやさしい村づくり	34
(2) 教育環境の充実	36
(3) 高齢者が安心して過ごせる村	38
(4) 生きがいをもって暮らせる村	42
5 玉滝村総合戦略に含まない施策（長期振興計画にのみ記載）	45

I 「王滝村総合戦略」の評価について

1 趣旨

「王滝村総合戦略」を着実に推進するため、その進捗について評価し、今後の施策や事業の改善に活用します。

基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（K P I）の進捗状況を客観的に把握し、外部の視点も確保して評価を行い、村民に公表します。

2 王滝村総合戦略の進捗状況の概要

王滝村総合戦略の6年目である令和2年度の施策に係る基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（K P I）の進捗状況の概要は以下のとおりです。

(1) 基本目標の進捗状況

5つの基本目標に掲げた6つの数値目標について、計画最終年度である令和2年度の目標達成に向けた進捗状況を「順調」、「概ね順調」、「努力を要する」の3段階で評価しました。

その結果、1指標が「概ね順調」、5指標が「努力を要する」となりました。

基本目標	指標及び目標値	実績値					
		H27年度 (1年目)	H28年度 (2年目)	H29年度 (3年目)	H30年度 (4年目)	R元年度 (5年目)	R2年度 (6年目)
1 出生数	平成27～令和2年 出生数 27人 (H22～H26年13人)	3人	3人	3人	2人	5人	4人
		3人	6人	9人	11人	16人	20人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	概ね順調
2 社会移動 増減	平成27～令和2年 社会移動数 △40人 (H22～H26年△50人)	△7人	△25人	△6人	△11人	△12人	△8人
		△7人	△32人	△38人	△49人	△61人	△69人
		概ね順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する
3 観光地延 利用者数・ 観光消費額	観光地延利用者数 令和2年320千人 (平成26年273千人) 観光消費額 令和2年13.8億円 (平成26年11.7億円)	116千人	171千人	158千人	160千人	164千人	110千人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する
4 公共交通 機関利用者 数	公共交通利用者数 令和2年度2,000人 (平成26年度1,120人)	1,022人	1,199人	1,302人	1,324人	1,263人	1,235人
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する
5 要介護 認定率	高齢者に占める要介護者の割合 (要介護2以上) 令和2年減少 (平成26年5.9%)	8.3%	9.1%	11.3%	10.4%	8.7%	10.6%
		努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する

村の人口について、令和3年4月1日現在713人で、令和2年4月1日現在の730人と比較し、1年間で17人の減少となっています。

内訳は自然減9人（出生4人、死亡13人）社会移動減8人（転出超過）です。

【村の人口の推移】

令和 3年4月1日	713人 (△17人)
令和 2年4月1日	730人 (△23人)
平成31年4月1日	753人 (△23人)
平成30年4月1日	776人 (△11人)
平成29年4月1日	787人 (△41人)
平成28年4月1日	828人 (△11人)
平成27年4月1日	839人

※6年間で年間平均 (△21人)

(2) 重要業績評価指標 (KPI) の進捗状況

39の重要業績評価指標 (KPI) について、基本目標と同様に3段階で評価しました。

その結果、全指標の53.9%にあたる21の指標で「順調」「概ね順調」となり、35.9%にあたる14の指標で「努力を要する」となりました。

令和2年度 (6年目) の重要業績評価指標 (KPI) の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	9 (56.2%)	1 (6.3%)	6 (37.5%)	0 (0.0%)	16 (100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	5 (100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	4 (44.4%)	3 (33.3%)	9 (100%)
4 子育て・福祉 (出生数、要介護認定率)	5 (55.6%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	9 (100%)
計 (%)	17 (43.6%)	4 (10.3%)	14 (35.9%)	4 (10.2%)	39 (100%)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

【進捗区分】 ※6年間の計画期間のうち、6年間で終了したことを考慮

- 順調 : 100%以上の進捗
- 概ね順調 : 60%以上100%未満の進捗
- 努力を要する : 60%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

【参考】

令和元年度（**5**年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 くらし (公共交通機関利用者数)	11 (68.8%)	1 (6.3%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	16 (100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	5 (100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	0 (0.0%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	4 (44.5%)	9 (100%)
4 子育て・福祉 (出生数、要介護認定率)	6 (66.7%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	9 (100%)
計 (%)	19 (48.7%)	6 (15.4%)	9 (23.1%)	5 (12.8%)	39 (100%)

※端数処理のため合計が 100.0 にならない場合もあります。

【進捗区分】 ※6年間の計画期間のうち、5年間で終了したことを考慮

- 順調 : 90%以上の進捗
- 概ね順調 : 60%以上 90%未満の進捗
- 努力を要する : 60%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

平成30年度（**4**年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 くらし (公共交通機関利用者数)	11 (68.8%)	0 (0.0%)	5 (31.2%)	0 (0.0%)	16 (100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	5 (100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	4 (44.5%)	3 (33.3%)	9 (100%)
4 子育て・福祉 (出生数、要介護認定率)	6 (66.7%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	9 (100%)
計 (%)	20 (51.3%)	3 (7.7%)	12 (30.7%)	4 (10.3%)	39 (100%)

※端数処理のため合計が 100.0 にならない場合もあります。

- 順調 : 80%以上の進捗
- 概ね順調 : 60%以上 80%未満の進捗
- 努力を要する : 60%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

平成29年度（**3**年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	10 (62.5%)	0 (0.0%)	6 (37.5%)	0 (0.0%)	16 (100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	5 (100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	5 (55.6%)	2 (22.2%)	9 (100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	5 (55.6%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	9 (100%)
計 (%)	19 (48.7%)	4 (10.3%)	14 (35.9%)	2 (5.1%)	39 (100%)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

- 順調 : 60%以上の進捗
 概ね順調 : 40%以上 60%未満の進捗
 努力を要する : 40%未満の進捗
 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

平成28年度（**2**年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	10(58.9%)	0(0.0%)	7(41.1%)	0(0.0%)	17(100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	3(60.0%)	0(0.0%)	2(40.0%)	0(0.0%)	5(100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1(11.1%)	2(22.2%)	4(44.4%)	2(22.2%)	9(100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	4(44.4%)	4(44.4%)	0(0.0%)	1(11.1%)	9(100%)
計 (%)	18(45.0%)	6(15.0%)	13(32.5%)	3(7.5%)	40(100%)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

- 順調 : 40%以上の進捗
 概ね順調 : 30%以上 40%未満の進捗
 努力を要する : 30%未満の進捗
 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

平成27年度（1年目）の重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	12(70.6%)	0(0.0%)	5(29.4%)	0(0.0%)	17(100%)
2 移住・交流 (社会移動増減)	4(80.0%)	0(0.0%)	1(20.0%)	0(0.0%)	5(100%)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	3(33.3%)	1(11.1%)	0(0.0%)	2(22.2%)	9(100%)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	6(66.7%)	1(11.1%)	0(0.0%)	2(22.2%)	9(100%)
計 (%)	25(62.5%)	2(5.0%)	9(22.5%)	4(10.0%)	40(100%)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

- 順調 : 20%以上の進捗
- 概ね順調 : 15%以上 20%未満の進捗
- 努力を要する : 15%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

II 各指標の進捗状況

1 【くらし】安全・安心なくらしを守り、王滝村の特性を生かした村づくりを進めます

(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
ごみ排出量の抑制	目標値	t								247以下
	実績値		258	248	237	211	201	195	203	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	【備考】 木曾クリーンセンターにおける 王滝村分の粗大ごみ、不燃ご み、可燃ごみの年間処理量 [長期振興計画での平成32年度 目標値を踏まえた数値を目標]	主な施策	広報誌等を活用した啓発活動							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	平成29年4月に生ごみの分別収集を開始したため、ごみの排出量は計画以上に減少し、順調に進捗しています。 一人当たりの排出量は928g/日と管内でも高く、引き続き村民の意識醸成のための啓発に努めます。								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
リサイクルの推進	目標値	t								63
	実績値		58	70	66	66	59	56	57	
	進捗区分			順調	努力を要する	順調	順調	順調	順調	
	【備考】 木曾クリーンセンターにおける 王滝村分の資源ごみ回収量及び 学校における資源ごみ回収量 [長期振興計画での平成32年度 目標値を踏まえた数値を目標]	主な施策	広報誌等を活用した啓発活動							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	村民に資源ごみをリサイクルする意識が浸透してきており、資源ごみの回収量は目標以上となり、順調に進捗しています。 引き続き、一過性のものにならないよう啓発に努めます。								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
企業団体との連携	目標値	件								6
	実績値		5	5	5	5	6	6	6	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末における水源の森パート ナー協定締結件数 [水源の森パートナー協定を結ぶ 団体を更に1団体増やすことを 目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・水源の森づくりパートナー協定 5団体 ・森の里親パートナー協定 1団体 							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	パートナー協定の締結件数は目標を達成しています。 現在、締結中の団体との継続的な連携を図るとともに、下流都市町とのふれあい交流などあらゆる機会を捉えてパートナーになっていただける企業団体等の募集に努めます。								

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
上下水道の整備	目標値	%								現状維持
	実績値		99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末時点における上水道普及率 [普及率を維持することが目標]	主な施策	水道施設の維持管理							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	普及率は現状維持されており順調に推移しています。 引き続き、施設の維持管理に万全を期し、安全な水の供給に努めていきます。								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
行政関係電気使用量	目標値	KWh								757,200
	実績値		826,000	838,425	860,839	878,124	837,243	735,697	758,557	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	順調	概ね順調	
	【備考】 年間（年度）の村有施設電気使用量（村負担分） [長期振興計画の平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	主な施策	役場庁舎等における unnecessary 照明の消灯の実践							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	公共施設における必要最小限の照明の使用に加え、LED化に取り組んでいきます。								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	3Rの推進、周知、啓発	広報誌等を活用した啓発活動	B	リサイクルや生ごみの誤った出し方が見受けられる為、広報誌を活用した定期的な啓発を行います。 食品ロス削減に向けた啓発を行います。	福祉健康課
2	村民参加の村内美化清掃及び御嶽清掃登山の実施	村民美化清掃は年2回の実施 御岳清掃登山は未実施	B	R2年度はコロナ感染拡大の防止の為、地区内だけのごみ拾いを実施。回収量は春秋合計480kgでした。今後も継続して行います。 ※御嶽山清掃登山は入山規制状況により実施検討	福祉健康課
3	不法投棄防止パトロールの実施	不法投棄防止パトロールの実施	B	不法投棄（一般）の通報がありました。不法投棄が無いようパトロールの強化をします。	福祉健康課
4	王滝村公園事業	環境美化等に関する啓発活動	C	住民全体が景観美化の意識を高める取組を検討し、自然環境を活かした村づくりを目指します。	福祉健康課
5	簡易水道の安定供給を行なうための適正な有資格事業者による施設管理、保守点検	配水管等施設の補修	B	予算の範囲内で各種修繕工事を実施しました。専門業者による水質検査委託及び保守点検委託を行いました。	経済産業課
6	電気使用量及び化石燃料使用量の削減	チラシの配布による啓発 薪ストーブの継続的利用	C	温室効果ガス排出抑制に向けて、各家庭での取組の啓発に努めます。 公共施設においては照明のLED化、こまめな節電やアイドリングストップ、クールビズ・ウォームビズなどに心がけます。	福祉健康課 総務課
7	環境にやさしい自然エネルギーの検討及び導入	木質バイオマス発電に関する調査 再生可能エネルギーに関する調査	C	太陽光発電施設の調整を実施。今後の自然エネルギー導入のあり方について検討を進めていきます。	福祉健康課 総務課
8	用紙類使用量の削減	ペーパーレス会議システム導入の検討	C	ペーパーレス会議システム導入を検討します。(タブレット端末)	総務課
9	グリーン購入の推進	コピー用紙古紙100%使用	B	古紙100%のコピー用紙の使用を継続します。	総務課
10	公共施設の整備・維持管理や公共事業・イベント等での環境への配慮	役場庁舎の照明をLEDに交換 グリーン購入の推進	B	今後も環境に配慮した整備・物品の購入に取り組みます。	福祉健康課 総務課

(順調)	A	0	10%
(概ね順調)	B	6	50%
(努力を要する)	C	4	30%
(実績なし)	D	0	10%
合計	10	施策	

(2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
防災・観光アプリケーションの利用者数	目標値	人								5,000
	実績値		—	450	600	680	769	840	1,023	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 年度末におけるスマートフォン用防災・観光アプリケーションの登録者数 [年間1,000人程度の登録者を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット、ポスター、チラシ等を活用した啓発活動 ・田の原登山道入口などで登山者への啓発活動 							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	登山者に特化した仕様であるために、夏の登山客が極めて少ない状況で、登山者数が伸び悩んでいます。 今後見込まれる入山規制緩和や、木曾おんたけ観光局（DMO）を通じて、登山客が多い木曾町などと広域的な運用や観光コンテンツの開発を検討するなど、登録者数の増加を図ります。								
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
消防団人数 (機能別団員を含む)	目標値	人								70
	実績値		78	78	77	73	69	54	53	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	概ね順調	努力を要する	
	【備考】 年度末における消防団員（機能別団員を含む）の数 [基準値の1割減程度を目標]	主な施策	消防団員、機能別消防団員への勧誘活動							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	消防団員数は、前年度から若干減少しています。 今後も消防団員の減少が見込まれるため、引き続き新入団員、機能別消防団員の勧誘に努めるとともに、定年の引上げについても検討します。								
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
自主防災組織の育成	目標値	団								5
	実績値	体	2	3	3	3	3	3	3	
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	【備考】 年度末における自主防災組織の組織数 [村内の約半数の地区で自主防災組織を組織することを目標]	主な施策	自主防災組織の定期訓練への消防団員の派遣、指導							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	自主防災組織は3団体と横ばいで推移しています。 消防団の編成との兼ね合いもありますが、行政連絡員会議等の機会を利用して、自主防災組織の設置を依頼していきます。								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 火山災害をはじめ安心安全な災害対策

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	御嶽山噴火対策の推進 (避難施設、ビジターセンター整備、火山マイスター育成 等)	王滝頂上避難施設建設開始 王滝頂上山荘解体完了	B	王滝頂上の安全対策は避難施設建設で完了予定です。(令和3年度) 八丁だるみ周辺の安全対策は、王滝頂上避難壕移設、剣ヶ峰までの登山道修繕(令和3年度)大岩下周辺に避難壕1基新設(令和4年度)を予定しています。	総務課 経済産業課
2	安全・安心な情報通信体制の整備	情報伝達の多重化	B	防災無線デジタル化整備により、入力したテキストを複数メディア(ホームページ、アプリ、CATV、エリアメール)へ連携することが可能となりました。今後は運用面において、災害時などの確な情報伝達に努めます。	総務課
3	防災・観光アプリケーションの開発整備及び活用	防災観光アプリの運用	B	トラブルもなく運用できました。今後、御嶽山の入山規制緩和に備えコンテンツの充実とPRによる利用者の増加を図ります。	企画・観光 推進室 総務課
4	消防団の組織再編と機能別団員や女性団員の任用による団員の確保	団員確保のための積極的な勧誘	B	消防団員数は機能別団員を含め、微減しています。引き続き勧誘活動を継続し、団員確保に努めます。	総務課
5	自主防災組織の育成強化	活動なし	D	高齢化・過疎化の進行に伴い、組織の維持が課題となっている地域があります。活動内容の検討・見直しを行いながら、引き続き組織の育成強化に努めます。	総務課
6	広域消防、近隣町村や関係機関をはじめ役場消防隊や自主防災組織などとの連携強化	広域消防との合同訓練を実施	B	訓練や研修などを通じ、各関係機関との連携を強化していきます。	総務課
7	要援護者や高齢者世帯及び一人暮らし高齢者の救助体制の確立	要支援援護者台帳の随時更新	B	台帳の内容について、定期的に更新を図っています。個人情報の取扱となるため、平時、緊急時の取り扱いについて、再度確認を実施し、必要な時に必要な情報を関係機関と共有し、支援体制の確立を図っていきます。また、今後は、要支援者の個別避難計画についても作成を検討していきたいと思えます。	福祉健康課
8	住民支え合いマップの充実と地域との連携による支援体制の強化	要支援援護者台帳の随時更新	C	要支援援護者台帳と連動した支え合いマップの更新を行なっていないため、今後、定期的に更新を図っていきます。作成したマップをどのように活用していくか、消防や地域住民・関係機関などと連携を図ることができていないため、関係機関や地域住民の意見も取り入れながら、支援体制の検討や整備に向けた取組みをしていきます。	福祉健康課
9	防災無線やCATV、携帯電話(防災メール)など情報伝達の多重化	災害時等、防災行政無線や携帯電話(緊急速報メール)での情報伝達	B	平成30年度から防災行政無線デジタル化に着手しました。各種メディア連携も可能となり、令和2年度末をもって完成しました。令和3年度からは、移動系防災行政無線設備の整備に向けて取り組んでいきます。	総務課
10	袋小路の解消(白巣峠など)に向けた取組	進展なし	D	関係機関との調整に努めます。	総務課 経済産業課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	7	70%
(努力を要する)	C	1	10%
(実績なし)	D	2	20%
合計	10	施策	

(3) 安全なくらし

指 標 名	年度	単位	基準値 (H27.11末)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
交通死亡事故ゼロ 記録の更新 【備考】 年度末における交通死亡 事故ゼロの期間 [交通死亡事故ゼロの期 間が続くことが目標]	目標値	日								更新
	実績値		10,765	10,887	11,252	11,617	11,982	12,224	12,753	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の街頭指導 ・学校交通安全教室の開催 ・観光客向け街頭指導所開設 								
進捗状況の分析 及び今後の取組	交通死亡事故ゼロの期間が引き続いており、順調に推移しています。 継続した街頭指導、交通安全教室の実施により、引き続き交通安全意識の継 続に取り組みます。 また、高齢者の交通安全対策について、検討し、取り組んでいきます。									
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
消費者被害 【備考】 消費者被害として役場に 報告等がされた件数 [0 件を維持することが 目標]	目標値	件								維持
	実績値		0	0	0	0	0	0	0	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料の作成・配布 ・郡内、県内での発生事例の情報提供 								
進捗状況の分析 及び今後の取組	被害報告は受けておらず順調に推移しています。 引き続き、啓発資料の作成・配布、郡内での発生事例の迅速な情報提供に努 めていきます。									
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
村内巡回バス台数 の増 【備考】 年度末における巡回バス の運行台数 [巡回バスの運行台数を 2 台にすることが目標]	目標値	台								2
	実績値		2	1	2	2	2	2	2	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	主な施策	平成 29 年 3 月から 2 台体制で運行をしています。								
進捗状況の分析 及び今後の取組	台数も確保され、車両の更新も図られているため、現状を維持します。									

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
村道改良率 【備考】 年度末における村道の改良率 [長期振興計画での平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	%								45.4
	実績値		42.0	41.8	41.8	41.8	42.8	42.8	43.2	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策	村道第 41 号線道路改良								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	令和 2 年度年度は改良率が若干向上しました。 今後は道路の維持・防災面を重点的に取り組むとともに、村道の在りかたについて検討を進めていきます。								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
村道舗装率 【備考】 年度末における村道の舗装率 [長期振興計画での平成32年度目数値を踏まえた数値を目標]	目標値	%								58.6
	実績値		56.0	55.8	55.8	55.8	57.1	57.1	57.7	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策	舗装の維持管理								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	現時点では、舗装の維持管理に努めています。 今後は予算を踏まえながら、必要個所の道路舗装に努めるとともに、村道の在りかたについて検討を進めていきます。								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
通信環境の広帯域化 【備考】 年度末における広域連合が整備しているインターネット回線の通信速度 [光ケーブルの一般的な通信速度である 100Mbps を目標]	目標値	Mb								100
	実績値	ps	30	30	30	30	1,000	1,000	1,000	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	順調	順調	順調	
	主な施策	—								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	木曾広域連合によりケーブルテレビ回線の全線光化が整備され、最大 1 G の超高速インターネットが全世帯で可能になりました。								

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H27年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)	
公共等施設の耐震化	目標値	施								10	
	実績値	設	12	12	12	12	12	12	12		
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	努力を要する		
	【備考】 年度末における非耐震施設の数 [5年間で2施設の耐震化を実施することを目標]	主な施策	—								
	進捗状況の分析及び今後の取組	平成 30 年度に王滝村公共施設等総合管理計画推進委員会において、公共施設の方向性を検討し、提言をいただきました。今後、個別計画を作成する中で、施設の優先順位付けを考慮した上で、耐震化に取り掛かる予定にしています。									
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)	
王滝村公共施設総合管理計画	目標値									策定	
	実績値		—	未策定	策定済	策定済	策定済	策定済	策定済		
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調		
	【備考】 当該年度における王滝村公共施設等総合管理計画の策定状況 [王滝村公共施設等総合管理計画の策定が目標]	主な施策	村有施設財産台帳の整備								
	進捗状況の分析及び今後の取組	すべての村有施設の財産台帳の整備が終了し、計画策定に向け順調に推移しています。 平成 28 年度に王滝村公共施設等総合管理計画を策定しました。									

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 安全なくらし

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	防犯対策及び環境対策 LED防犯灯の維持管理	現状維持	B	地区要望等に応じ、移設、新設を実施して いきます。	総務課
2	こども育成会の充実強化 など地域をあげて青少年 健全育成の推進	子ども・青少年健全育成 のための指導者研修 通学路の安全点検実施	B	学校・保育園参観日を活用した保護者や指 導者研修の実施の継続 警察署・学校・PTAと連携した安全点検 の継続実施 ※令和元年度から継続	教育委員会
3	防犯、交通安全関連優良 団体、功労者の表彰	功績のある方の推薦・表 彰	B	今後も機会を捉えて功績のある方を推薦し ていきます。	総務課
4	家庭、職場、学校、保育 園等における交通安全教 育の推進	交通安全協会による街頭 指導、学校交通安全教室 での指導	B	コロナ禍により活動形態の変化を余儀なく されたが、柔軟に対応しながら、今後も活 動を継続していきます。	総務課
5	電動カート講習会開催な ど安全利用の推進、子ど もと高齢者の交通事故防 止	高齢者交通安全大会への 参加	C	コロナ禍により、高齢者交通安全大会が中 止となりました。今後も村独自での電動カ ート講習会開催等、検討してまいります。	総務課
6	村内危険箇所の点検と交 通安全施設の整備	活動なし	D	交通安全協会、道路管理者で危険箇所点検 を実施します。	総務課
7	啓発資料の作成配布	チラシ配布	B	特殊詐欺を含めた消費者被害「0」に向 け、今後も啓発活動を継続します。	総務課
8	村内及び近隣町村での発 生事例等の情報提供	広報による情報提供	B	警察署等からの情報を、即時に広報等で村 民へ情報提供を行っていきます。	総務課
9	人権啓発、人権教育の推 進	小中学校で人権について 考える”みんなの樹業” を定期的に開催	B	小中学校で、村人権擁護委員による人権教 室を開催し、人権への理解を深めることが できました。 人権への関心を広めるために、今後も引続 き、人権教室の開催や広報誌への掲載等を 地道に取り組んでいきます。	福祉健康課 教育委員会
10	人権相談所、心配ごとと相 談所の利用促進	毎月テーマごとの相談所 を開設	B	人権相談所、心配ごと相談所を定期的に開 設しました。利用者は少ないものの、住民 の心の拠り所として、今後も、引続き開設 していきます。 また、広報など随時行い、周知を図るよう 努めていきます。	福祉健康課
11	人権に関する関係機関と の連携	情報の共有やネットワー クづくりを図るため、各 種担当者会議へ出席	B	人権問題の啓発、解決等を関係機関（教育 委員会、学校、行政、人権擁護委員、法務 局、木曽郡障がい者自立支援協議会等）と 連携を図りながら取り組んでいきます。	福祉健康課 教育委員会
12	男女共同参画推進の基盤 づくり	R2年度はコロナの関係も あり研修会等へは不参加 となった。	C	男女参画基本計画について再検討していき ます。	福祉健康課
13	男女平等意識の啓発、普 及	公共施設などへの啓発パ ンフレットの設置	B	各種窓口へ啓発用のパンフレットなどの設 置を行う他、広報紙などへの掲載を随時し ていくよう努めます。	福祉健康課
14	男女が共に働きやすい環 境づくりの推進	公共施設などへの啓発パ ンフレットの設置	C	地域社会全体の意識の向上を図れるよう広 報紙等を活用した取り組みを行っていきま す。	福祉健康課
15	基幹路線バス確保対策事 業	前年度なみの路線、便数 を維持	B	現状の路線、便数を維持していきます。	総務課

16	村内巡回バス運行事業	2台体制での運行を継続実施	B	基幹路線バスの黒沢止まりの便については、定期巡回バスとして接続を行っています。この定期巡回バスには、令和2年4月から観光客などの来訪者も乗車が出来るようになりました。それ以外の路線は、予約制によりドア to ドアの運行を行っています。今後は、動向を調査し必要に応じた交通体制を確保します。	総務課
17	巡回バス運行事業に携わる運転有資格者の育成及び確保対策事業	集落支援員による運行により有資格者の安定した確保が継続	B	必要に応じて有資格者の育成を図ります。	総務課
18	社会福祉協議会への運行委託で実施している過疎地有償輸送との密な連携対策事業	必要に応じ調整会議を開催	C	調整会議は行いませんでした。福祉有償輸送は利用者登録制により運行、巡回バスは村民どなたでも利用できますが、介助が必要な場合などは福祉有償輸送への案内などを行い連携は図られています。今後は、小規模な自治体であるため、一つの運行システムで福祉と過疎地の有償輸送を行う体制整備についての検討を進めていきます。	総務課
19	道路の定期的な安全点検及び防災事業の実施	道路の定期点検・計画的な道路改良工事	B	道路(橋梁・トンネル)の長寿命化修繕計画に基づき施設点検を進め、その結果により詳細設計を実施した上で修繕工事を行うという流れにより、国や県の補助事業等を活用しながら取り組んでいきます。	経済産業課
20	村民との協働作業による維持管理	村内草刈り・地区内の除雪作業	B	高齢化が進む村民への負担に極力配慮しながら、草刈等の環境整備や、要望のある地区へ除雪機を配備して村民との協働作業による除雪作業を今後も継続的に進めていきます。	経済産業課
21	既存ケーブルテレビを活用したデジタル自主放送設備の整備	外注による番組制作	B	小中学校音楽会の模様を番組制作し放送しました。今後も継続する予定です。	総務課
22	(広域)木曾高度情報通信網の整備	FTTH化事業	B	H30にFTTH化事業に着手し、インターネット1Gが可能になりました。	総務課
23	電子自治体の推進	申請の電子化	A	電子申請が可能な事務が39事務と当初見込みより大幅に増加しました。今後も引き続き取り組みます。	総務課
24	王滝村耐震改修促進計画の策定	耐震改修希望者なし	C	耐震診断の結果、改修に係る個人負担が大きくなり耐震改修希望者はありませんでした。	総務課
25	公共施設・災害時避難所・集会施設等の更新・耐震化に向けた優先順位付け	下条公民館を防災倉庫として活用	B	下条公民館を防災倉庫として活用し避難所の設営に必要な備品を保管しました。	総務課
26	インターネットを使った公共財産の売買等情報提供の充実	村ホームページへの掲載を検討	C	施設の選定から検討します。	総務課
27	公共施設あり方検討委員会によるコスト削減の具体化の検討	各課の意見を把握	B	公共施設等総合管理計画の施設について公共施設等総合管理計画推進委員会より出された意見を踏まえ、各課で施設の方向性について検討しました。	総務課
28	村民からの意見交換による活用策の検討	各課の意見を把握	B	公共施設等総合管理計画の施設について公共施設等総合管理計画推進委員会より出された意見を踏まえ、各課で施設の方向性について検討しました。	総務課
29	使用不能な公共施設の計画的改修撤去	老朽施設の解体・撤去の検討	B	村所有の施設うち使用不能な建物は存在しますが、解体費用の財源確保も必要なことから解体後の利活用を含め検討します。	総務課

30	王滝村絆助成事業の実施	団体の絆助成事業の実施	B	令和2年度は5団体から申請をいただきました。応募団体のニーズを見極め、見直しを検討していきます。	企画・観光 推進室
----	-------------	-------------	---	--	--------------

(順調)	A	1	3.3%
(概ね順調)	B	22	73.3%
(努力を要する)	C	6	20.0%
(実績なし)	D	1	3.3%
合計		30	施策

2【移住・交流】村の特性を活かした移住・交流を進めます

(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
テレワーカー等 行政関与の移住 【備考】 年度末時点のテレワーカー等行政関与による移住者の数 [年間1人程度の移住者を目標]	目標値	人								5
	実績値		—	1	0	0	0	0	0	
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィスとなる施設の整備 ・「おうたき寺子屋」の開設 ・地域おこし協力隊員（集落支援員）の採用 								
進捗状況の分析 及び今後の取組	テレワークの推進、地域おこし協力隊の定住サポートの取り組みにより、移住者の確保に努めていきます。村ホームページ等を活用して、積極的に情報発信を行っていききたいと思います。									
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
地域おこし協力 隊員の採用 【備考】 地域おこし協力隊員の累計採用数 [毎年2名程度の採用を目標]	目標値	人								15(累計)
	実績値		5(累計)	8(累計)	12(累計)	17(累計)	21(累計)	23(累計)	24(累計)	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	主な施策	地域おこし協力隊員の採用								
進捗状況の分析 及び今後の取組	隊員を随時採用し順調に推移しています。 地域おこし協力隊員への定住サポートの取り組みを引き続き行うとともに、地域の活性化に向けて地域おこし協力隊員の採用を進めていきます。 隊員を随時採用し順調に推移しています。 なお、令和元年度末までに退任した18名の協力隊員のうち、定住している方は5名で定住率は28%です。(長野県77%) 定住率が非常に低いため、今後は協力隊員の採用方法や受入体制を検討していきます。									
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
サポートによる 結婚 【備考】 年度における行政、関係機関が関与した婚姻の数 [行政、関係機関が関与した婚姻が成立することを目標]	目標値	組								1以上
	実績値		—	0	0	0	0	0	0	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策	郡内6町村と木曾広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」の推進								
進捗状況の分析 及び今後の取組	平成30年度から郡内6町村と木曾広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」を立ち上げ、広域連携により結婚支援を推進しています。 令和2年度はコロナ禍のためオンラインで婚活イベントを実施しました。									

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	ふるさとテレワークの推進	ギークハウスの活用	C	ギークハウス信州王滝でテレワーク環境を整備したものの、令和元年度も希望者がいませんでした。今後も効果的な取り組み内容の検討を行います。	企画・観光推進室
2	老朽化した住宅の更新整備、新設住宅整備の検討	公共施設等総合管理計画推進委員会の開催	B	公共施設等総合管理計画推進委員会を開催し、利活用に向け検討しました。	総務課
3	移住相談窓口の設置、移住体験の推進	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	B	郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」により、令和元年度は専属の移住コーディネーターを配置し、定住促進のための就労相談、就職情報を提供できる環境を整えました。	企画・観光推進室
4	空き家、住宅情報の提供	役場窓口や電話相談での空き家や住宅情報の提供	B	東京都からの移住希望者へ別荘地にある村有物件情報を提供したところ、ご購入いただき、移住に結び付けることができました。	企画・観光推進室
5	定住促進のための就労相談、就職情報の提供	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	B	郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」により、令和元年度は専属の移住コーディネーターを配置し、移住促進のための就労相談、就職情報を提供できる環境を整えました。	企画・観光推進室
6	住宅整備における地元産材の活用と山林所有者との連携しくみづくり	村営住宅整備時プロポーザルへの条件提示	D	長期的な計画で地域材のストック場所の確保が必要です。	経済産業課 総務課
7	定住環境の魅力アップ	安心して生活できる生活環境の整備	C	総合戦略に掲げた、暮らし・しごと・人との交流など、安心して生活できる総合的な取り組みを推進します。	総務課
8	田舎暮らしの良さのPR 情報通信網の整備	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	C	郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」により、令和元年度は専属の移住コーディネーターの配置、ポータルサイトの開設、移住促進ツアーなどを実施しました。	企画・観光推進室
9	森林資源活用のための基礎調査	木質バイオマスエネルギー導入の検討	D	木質バイオマスエネルギー導入計画を策定し、素材生産者等との検討を行いました。が、導入の予定はなくなりました。	総務課
10	村民参加による王滝村の ランドデザイン	王滝村総合戦略会議等での施策推進及び検証	B	長期振興計画、総合戦略を王滝村のランドデザインと位置づけ、産官学多様な分野から住民の皆さまに参画を得ながら施策推進や検証に取り組みます。	総務課
11	ひとり親家庭も含めた子育て世代の移住促進プロジェクト	木曽広域自立圏連携ビジョン「移住・定住促進事業」の推進	B	令和元年度はひとり親家族（3人）の移住がありました。長野県や先進自治体の取り組みに注視しつつ、郡内6町村の広域連携による「移住・定住促進事業」などを通じて、子育て世代の移住促進を図ります。	総務課
12	独身者の状況把握	独身者の状況把握	B	個人情報の取り扱いには注意を払いながら、広域連携による婚活事業等が予定されているので、参加の働きかけを行っていきます。	総務課
13	相談窓口の設置	相談窓口の充実	C	小規模自治体のメリット（各分野担当者にすぐ連絡をとれる）を活かし、スピーディーに相談を受ける体制を整えます。	総務課

14	行政、関係機関とのサポート体制づくり	木曾広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」の推進	C	郡内6町村や関係機関との情報の共有により、サポート体制づくりの足掛かりをつかむことができました。	総務課
15	出会い、交流の場の提供	木曾広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」の推進	B	木曾広域自立圏連携ビジョン「結婚支援事業」の一環として、郡内6町村共同で婚活イベントを9月と12月に実施しました。	企画・観光推進室

(順調)	A	0	0.0%
(概ね順調)	B	8	53.3%
(努力を要する)	C	5	33.3%
(実績なし)	D	2	13.3%
合計		15	施策

(2) 下流域地域など交流の一層の充実

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
ふるさと村民数	目標値	人								350
	実績値		119	240	324	340	373	375	375	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末におけるふるさと村民登録者数 [ふるさと村民登録者数が3倍程度になることが目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・村ホームページでの周知 ・下流域市町との交流での制度周知 							
	進捗状況の分析及び今後の取組	登録者数は目標を達成しました。 導入後6年が経過し、ふるさと納税や関係人口施策、コロナ禍などの社会情勢の変化等を踏まえ、制度について再検討を進めます。								
指 標 名	年度	単位	基準値 (H27年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
下流域市町との ふれあい交流	目標値	回								34
	実績値		31	39	35	34	30	26	10	
	進捗区分			順調	順調	順調	概ね順調	概ね順調	努力を要する	
	【備考】 年間（年度）の王滝村での役場を介した下流域市町との交流事業の回数 [下流域からの交流事業での来村回数を基準値から1割程度増やすことが目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・下流域市町等の森林整備 ・水源の森パートナー事業 ・産業まつりへの参加 							
	進捗状況の分析及び今後の取組	おおむね順調に推移していましたが、コロナ禍により近年は交流回数が減少しています。 コロナ前の交流が途切れることのないよう努めるとともに、森林環境贈与税の活用などにより、新規の団体との交流を促進していきます。								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 下流域地域など交流の一層の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	企業団体等との連携による水源の森づくり事業の促進	牧尾ダム水源の森づくりパートナー協定等の締結	B	現在5団体とパートナー協定を締結しています。今後、より良い関係性を維持し、協働の森づくり事業を促進していきます。	企画・観光推進室 経済産業課
2	下流域及び企業ボランティアの募集	森林整備ボランティアの募集	B	パートナー協定に因らない制度で下流域の企業1社と協議を行い、森林整備ボランティアを実施しました。	経済産業課
3	交流促進のための施設整備	公共施設の有効活用について検討	C	公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の有効活用について検討しました。	総務課
4	交流による経済、文化など地域活力の向上	下流市町開催の産業まつり等への参加	C	出展者の確保が難しい状況もあり、交流機会の減少を回避できなかった事から、今後は参加会場を絞り込み、より効果的な経済・文化の地域活力の向上に努めます。	経済産業課
5	村民と都市住人共同による森林の保全再生活動	上下流域の住民が協働で取り組む森づくり	B	下流域の複数自治体から市民の皆様による森林整備ボランティアツアーの受け入れを行いました。	総務課 経済産業課
6	魅力ある村づくりプロジェクト	自然エネルギー利活用による地域活性化の検討	B	王滝村の地域資源を活かした、複数の自然エネルギー利活用による地域活性化事業の案件を検討していきます。	総務課
7	公共施設集約化事業・村有地の利活用に向けた整備	公共施設等総合管理計画推進委員会の開催	B	公共施設等総合管理計画推進委員会を開催し、利活用に向け検討しました。	総務課
8	交流の拠点づくり	交流の拠点づくり	C	戦略会議部会などの提言などを参考にし、交流の拠点づくりを検討します。	総務課

(順調)	A	0	0.0%
(概ね順調)	B	5	62.5%
(努力を要する)	C	3	37.5%
(実績なし)	D	0	0.0%
合計		8	施策

3【産業】新たな産業や観光振興による村内の雇用の創出を図ります

(1) 観光資源の活用による地域振興

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H27年)	H27年	H28年	H29年	H30年	R 元年	R2年	目標 (R2年)
観光地利用者 延数 (宿泊者) 【備考】 県観光地利用者統計 調査における年間宿 泊数 [年間2,500泊程度 の増を目標]	目標値	人								83,200
	実績値		71,000	27,200	34,800	31,900	30,600	32,400	6,000	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・村外者向けプレミアム商品券の発行 ・冬季シーズン優待券発行 								
進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>R2年はコロナ禍により大幅な減少となりました。入山規制や風評被害等により観光客は、まだまだ噴火前の半分に満たない状況下でのコロナ禍で観光産業は非常に厳しい状況にあります。</p> <p>特に宿泊業が深刻な影響を受けていますが、経済活動を感染リスクの低いものから順次再開し、村内経済の再生を図ってまいります。</p>									
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
ツアーガイド の養成 【備考】 年度末におけるアウト ドアに関するガイド の養成数 [年間1人程度のガイ ドの養成を目標]	目標値	人								10(累計)
	実績値		5	7(累計)	8(累計)	9(累計)	9(累計)	9(累計)	10(累計)	
	進捗区分			順調	概ね順調	概ね順調	概ね順調	概ね順調	順調	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌーツアーガイドの養成 ・滝行ガイド等の人材育成の取組 								
進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>木曾おんたけ観光局において、自然湖カヌーツーリングの運営を行うことになったことから、各種アクティビティに精通するマルチなツアーガイドの育成に取り組んでいます。R2年度は、新たに1名の若手ツアーガイドが松原スポーツ公園に配置になり、自然湖カヌーツーリングのツアーガイド等を行っています。</p>									
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
御岳湖カヌー 利用者数 【備考】 御岳湖カヌーツアー の年度利用者数 [一月平均150人程 度の利用を目標]	目標値	人								1,000
	実績値		140	658	591	537	210	207	128	
	進捗区分			順調	概ね順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験を盛り込んだ商品造成及び販促 ・観光事業者等からのインストラクターの確保、人材育成 								
進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>ここ数年は、牧尾ダムの水位変動による営業不可日の増加、R2年についてはコロナ禍により利用者数が大幅に減少しました。(営業日 H29=57日、R1=19日、R2=15日)</p> <p>今後、(一社)木曾おんたけ観光局において自然湖カヌー等と一括りの経営となることから、より効率的、効果的な活動に取り組んでいきます。</p>									

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
スポーツ合宿 受入団体・来 村者数 【備考】 年度における村有施設 利用団体数及び施設 利用者の延数 [年1団体程度の増 を目標]	目標値	団体								15(700)
	実績値	(人)	9(500)	10(475)	11(630)	13(749)	12(650)	12(747)	2(60)	
	進捗区分			概ね順調	順調	順調	順調	概ね順調	努力を要する	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・松原スポーツ公園指定管理による利用促進 ・国民体育館の受入環境整備（大掃除、倉庫整理、草刈りなど） ・団体受入れのためのコロナ対策 								
進捗状況の分析 及び今後の取組	R2年はコロナ禍により受入団体、来村者数が大幅に減少した。アフターコロナを見据え、ワーケーションなど新たな視点を取り入れるなど準備を進め、スポーツ合宿誘致を推進します。									
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
観光路線バス の運行期間拡 大 【備考】 観光路線バスの年間 運行期間 [年間運行期間を拡 大することが目標]	目標値	日								運行期間の増
	実績値		夏・秋 (108)	夏・秋 (71)	夏・秋 (40)	夏・秋 (52)	夏・秋 (38)	運休	運休	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	実績値なし	実績値なし	
	主な施策	田の原～木曽福島駅間の観光路線バス運行 (噴火以降、土日祝日のみ1日3便運行)								
進捗状況の分析 及び今後の取組	R1については、費用対効果の観点から運行休止し、R2については新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業者支援として運行しました。R3については、費用対効果から運休しています。R4以降、御嶽山 VC 運用開始、入山規制の更なる緩和が想定され、二次アクセスとして重要度が増すことが想定されます。一方、輸送事業者の人手不足も深刻化しており、施策を進めるにおいて、各方面と調整が必要となっています。									

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 観光資源の活用による地域振興

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	村ブランドストーリーの展開【いのち呼び覚ますところ「おんたけ王滝】	木曾おんたけ観光局における新たなブランドコンセプトの検討	C	今まで集積してきた王滝村のブランドストーリーを継承する形で、木曾おんたけ観光局における新たなブランドコンセプトの策定を進めます。	企画・観光推進室
2	新たなツーリズムの開発と、住民・観光客への自然環境保護の啓発	ダム、国有林を活用したツーリズムの開発 森林・林業体験交流促進 対策検討委員会の開催	C	ダムツアーや国有林イベントを実施。引き続き、木曾おんたけ観光局や森林管理署等と連携し、地域資源を活用した新たなツーリズムの開発、検討を行います。特に瀬戸川国有林の活用に力を入れていきます。	企画・観光推進室
3	ツアーガイドの養成と活用	カヌーツアーガイド等の養成	D	カヌーツアーガイドの養成とスキルアップに取り組むとともに、今後、御嶽古道や瀬戸川国有林など多分野におけるガイド養成に取り組みます。	企画・観光推進室
4	利用者の立場に立った観光地の整備	清滝・新滝の古道整備 銀河村キャンプ場等村有観光施設の改修	C	清滝・新滝の歩道整備や御嶽古道などアウトドアスポーツの新たな環境整備を引き続き推進します。	企画・観光推進室
5	おもてなしの心、受入体制の充実	外国人向けマップの製作 事業者向け英会話教室の開催 外国人ファムツアーの実施	D	おもてなしの心、受入れ体制の充実など、インバウンド対応を加えたソフト面の受入環境向上に取り組めます。	企画・観光推進室
6	エコツーリズムの拡大と積極的な推進	カヌーツアーや国有林を活用したプログラムの推進	C	今後、木曾おんたけ観光局や木曾地域広域観光振興プロジェクト会議などと連携し、滞在型観光を目指したエコツーリズムの拡大と積極的な推進を行います。	企画・観光推進室
7	ICTを活用した観光施設支援事業	来訪者向け防災、観光情報発信システムの運用	D	田の原観光センター、スキー場施設ヘデジタルサイネージを整備。今後、インバウンド対応も含め、効果的な支援策を検討します。また、御嶽山ビジターセンターでの活用を検討していきます。	企画・観光推進室
8	村民や民間団体を主体とする観光振興	各種アウトドアイベントの実施 おんたけ湖ハーフマラソン大会の実施	C	引き続き住民や民間団体主体のイベントへの支援を実施します。	企画・観光推進室
9	観光路線バス事業の継続と地元観光業者との運行協力体制の確立	入山規制に伴い運休	C	利用者の減少が著しいため、令和元年度は運休しました。今後は、登山者の動向を注視し再開を検討します。	総務課
10	合宿誘致などトレーニングコースの整備（松原スポーツ公園リニューアル、クロスカントリーコースの設置）	既存のスポーツ施設を活用した合宿誘致	D	平成28年度地方創生加速化交付金を財源とし、合宿誘致に関する調査研究事業を実施。今後、ニーズやマーケティングの要素を加味し、中長期的な観点から計画的なコース整備を目指します。	企画・観光推進室
11	アウトドアスポーツの一層の推進	「スポーツ王国王滝」の推進	B	引き続き「スポーツ王国王滝」を旗印として掲げ、既存コンテンツの更なる磨き上げと、新たなツーリズム・プログラムの開発に取り組めます。平成30年度からは地方創生推進交付金を活用していきます。	企画・観光推進室

12	新たな観光戦略の策定・推進「世界水準の滞在型観光地」「日本遺産」	「世界水準の滞在型観光地」を目指し日本版DMO（木曾おんたけ観光局）の設立	D	DMOを核として、山岳高原の地域資源を活かした世界水準の滞在型観光地づくりに積極的に取り組みます。また、日本遺産との連携を図り、新たな観光戦略を推進します。	企画・観光推進室
13	木曾地域の資源を活かした広域観光地づくりの推進	木曾おんたけ観光局（木曾町と連携） 日本遺産（7市町村で連携）	C	山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり、日本遺産登録による自然的、歴史的資源の価値向上と発信に他自治体等と連携して取り組みます。	企画・観光推進室
14	日本版DMOの推進	「世界水準の滞在型観光地」を目指し、日本版DMO（木曾おんたけ観光局）を設立	D	木曾おんたけ観光局自立に向け、地域全体として事業への理解、事業参加、事業のPRを行い、地方創生推進交付金などを活用した財政的支援やハード整備を担い、観光を軸とした地域づくりの支援を積極的に行います。	企画・観光推進室

(順調)	A	0	0.0%
(概ね順調)	B	1	7.1%
(努力を要する)	C	7	50.0%
(実績なし)	D	6	42.9%

合計 14 施策

(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
新たな雇用創出	目標値	人								30
	実績値		—	—	—	—	—	—	—	
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	実績値なし	実績値なし	実績値なし	実績値なし	
	【備考】 年度末における木質バイオマス等自然エネルギーの活用に伴った雇用者の数 [自然エネルギーの活用を雇用に繋げ、雇用者が30人になることが目標]	主な施策	—							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	自然エネルギーの活用による雇用創出については、太陽光発電事業の誘致を進めていますが、開業していないため実績値なしとします。 王滝村の自然を生かし、木質バイオマス等の活用について研究を進め新たに雇用の創出を目指します。								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
年間木材搬出量	目標値	m ³								500
	実績値		110	220	100	100	—	—	117	
	進捗区分			順調	努力を要する	努力を要する	実績値なし	実績値なし	努力を要する	
	【備考】 年間（年度）の村内における木材搬出量 [村内における木材搬出量を5倍程度にすることが目標]	主な施策	搬出コスト削減のための作業路網の整備							
	進捗状況の分析 及び今後の取組	春山団地にて作業路網整備を行い、カラマツ材等の木材搬出を実施いたしました。 しかしながら、近年の市場における木材価格が不安定であることと大雨等の自然災害により村有林内の作業路網整備を見合わせたことにより、搬出事業における成果が得られませんでした。木曾森林管理署との協議により滝越団地（林道王滝線内）等の木材搬出について検討していきたいと考えます。								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	木質バイオマス事業の推進	木質バイオマス事業の検討	D	木質バイオマスの基本調査結果を基に事業化に向けた検討を行いました。事業の予定はなくなりました。	総務課 経済産業課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	0	0%
(努力を要する)	C	0	0%
(実績なし)	D	1	100%
合計		1	施策

(3) 地域に根ざした産業の振興

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H24年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
卸・小売業の年間 商品販売額(1人 当たり年間商品 販売額) 【備考】 経済センサス又は商業 統計速報での王滝村の 卸・小売業の年間商品 販売額(1人当たり年 間商品販売額) [毎年1%向上するこ とを目標]	目標値	万								毎年1%の向
	実績値	円	1,026	—	1,196	—	—	—	—	
	進捗区分			—	順調	—	—	—	—	
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券の発行 ・優待券の発行(ありがとうキャンペーン) 								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>次回の経済センサス活動調査は令和3年度に実施する予定です。 引き続き、村内の消費喚起に資する施策を実施していきます。</p>								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
遊休農地面積 【備考】 年度末における遊休農 地面積 [遊休農地を15%程度減 少させることを目標]	目標値	ha								11
	実績値		13	15	11	12	12	12	12	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	概ね順調	概ね順調	
	主な施策	<p>令和2年度長野県地域発元気づくり支援金事業「新規就農者の地野菜生産・加工を中核にした就農支援事業」において高齢者の農業を支える省力化農業を目的に、農業機械(コンバイン、シーダー(そば播種機)、バッカー(自動計量機)総額4,070,000円)を新規に導入。新規就農者を育成しながら、同時にオペレーターも養成し、村内農業及び地野菜加工を支える人づくりに着手した。</p>								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>昨年度から王滝村地域農業合理化組合のオペレーターとして養成されたそば栽培作業員が、トラクターの後部へシーダー(播種機)を取付けそば栽培に励みました。また、一斉に収穫作業を進めなければならない繁忙期も、新規にコンパクトで簡単に操縦可能なコンバインを導入し、3人のオペレーターで最後までやりきることができました。これにより、本年度も組合事業が活発化され、村内高齢農業者に対し草刈作業も含め幅広い作業を提供できる体制へと発展しました。またJA木曾王滝支所と協力し、春作の王滝かぶを活用した夏すんき600kgを加工生産し、夏の王滝村産そばの販路拡大と、女性加工作業員の高齢化対策として新規女性作業員の養成を図りました。これらの効果もあって収穫されたそばは、前年度対2.35倍(全て1級品)の3.22tで、全量がこれまでにない高値で新規売り先となり、松本市の大手外食企業(そば専門)と浅間温泉の高級旅館へ引き取られました。R3年度、3年目の元気づくり支援金事業では、農業機械(シーダー(播種機)取付対応トラクタ・スパイダーモア(斜面草刈機)・据置型真空包装機、総額5,621,000円)を新規に導入し、そば栽培事業及び王滝かぶ生産・加工事業それぞれに人づくり及び組織づくりを軌道にのせる予定です。王滝村地域農業合理化組合では、独自事業としても、遊休農地6筆8,618㎡の利用権設定を予定し、地野菜生産拡大に取組み生産法人化の組織づくり(準備・試験段階)に取組みます。</p>								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 地域に根差した産業の振興

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	企業誘致のための条件整備	王滝村創業支援事業	B	木曾町とともに経済産業省等の認定を受けて行う創業支援計画と創業支援事業補助金交付要綱により企業誘致を推進しました。令和2年度は創業セミナー（特定創業支援事業）を開催し、村内から2名が受講し認定を受けました。	企画・観光推進室
2	農林商工連携による新たな産業の創造	観光事務所や商工会と農林産物加工販売業者が連携した物産展等への出展、販売促進	C	コロナ禍により、例年参加していた物産展や産業まつりが中止となり農林商工連携の機会が消失しました。今後、地域DMOを中心とした農林商工連携による新たな産業の創造について議論を進めるとともに、過疎地を対象とした特定地域づくり事業協同組合の設立など新しい施策を検討していきます。	企画・観光推進室
3	六次産業化への支援	六次産業支援に向けた体制づくり	C	生産・加工・販売が一体となった、六次産業化支援に向け、地域DMO等と連携して”地域商社”的役割を担う実施主体づくりの検討を行いました。令和3年度は観光局でECサイトを立ち上げ地元産品の販売促進を図ります。	企画・観光推進室
4	村内事業の受け皿となる事業所の設立	地域DMOとの連携	B	観光地域づくりの舵取り役として設立された地域DMOを支援し、村内事業の受け皿となるプラットフォームづくりの推進を行いました。	企画・観光推進室
5	省力化農産物の掘り起こしと王滝かぶ等特産物の作付け誘導及び維持	春・秋の王滝かぶ栽培講習会の実施、新規の栽培者養成 そば栽培講習会及び水稻栽培講習会の開催	A	春の王滝かぶ栽培では、新規就農者の生産により、前年度の約4倍の収量を収穫でき、春の王滝かぶ甘酢漬けの800kg生産と、春の王滝かぶの菜を活用して夏すんき600kgの本格的な生産に取り組みました。王滝産そば（信濃1号）栽培において、労力の省力化を軸とした機械化に踏み切り、本格的なオペレーター育成を推進しました。次年度は、元気づくり支援金を活用し、取り扱いやすさに優れている最新式のトラクタを整備し、荷重の掛かるアタッチメントに耐えうる機械を整える予定です。	経済産業課
6	合理化組合の生産組織経営体（農業法人化）への発展的再編	トラクタや高畝式管理機、耕うん同時小畝立て施肥播種機、そば自動計量機、最新式の田植え機等の取り扱い講習会の開催	A	機械になれない初心者の受講生も、合理化組合長を中心としたベテランオペレーターの指導を受けて、少しずつ機械の取り扱いになれ、一人で作業できるまでに成長しました。次年度は合理化組合独自の借用農地を取得し、農事組合法人を目指す前段で、組合員が力を合わせて王滝かぶやそば等の地野菜生産に取り組む事業を展開します。	経済産業課

7	農地の利用集積の促進による遊休農地の発生防止と有効利用の促進	村内各地区の農業者による人・農地プラン打合せ	A	王滝村の農業者からの事前アンケート等の資料を基に各地区で話し合いが行われました。王滝村農業委員会で審議された10年先まで見据える「王滝村の人・農地プラン」においては、村内農地の維持管理における中心的な経営体へ合理化組合が選出されました。村内農業者を機械化作業により支える合理化組合の機械維持管理費を村としても補助金等で経済的に応援していく予定です。	経済産業課
8	防除・駆除・環境整備の観点から効果的かつ総合的な有害鳥獣対策の継続実施	王滝村鳥獣被害対策協議会の有害鳥獣の捕獲事業鳥獣生息環境管理事業実施による雑木林の整備	B	ニホンザルの移動ルートの雑木林を皆伐することにより、本田地区の南から村内中信地区への侵入を減少させる事と、中越地区の北からの侵入を減少させることができました。しかし、それぞれ逆ルートからの侵入が増え始めていることから、今後はその部分の雑木林の整理を検討する必要があります。また、次年度に向けては、同時にニホンザルの首へGPS発信機を取付け、群れごとに移動ルートを把握する等、効率的な捕獲や防除対策へつながるようなテレメトリー調査も必要とされます。次年度に向けては、国庫補助：鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して取組む予定です。	経済産業課
9	自然との調和を基調とした農村環境の整備	新規就農者の利用権設定の促進	A	昨年も水稲栽培を止む無く中止することを選択された一人暮らしの高齢女性農業者へ、一緒になって農業を取り組んでくださりそうなIターン者を紹介したり、各種講習会へ参加され農業に興味を持ってくださったIターンの一家へ遊休農地を紹介するなどして、利用権設定へとつなげました。村外に向けて情報発信し、新たなIターン者を引き入れていく必要があります。次年度に向けては、元気づくり支援金を活用し取り組む予定です。	経済産業課
10	遊休・荒廃農地の増加を抑え、解消するための様々な事業展開	草刈及び畝立て等の受託等の整備	B	低料金で草刈りなどの受託を引き受けることができる仕組みをフレールモア（トラクタ連結の草刈機）導入などで開始しました。草刈り講習会も定期的に関き、作業オペレーター育成も同時に進めました。次年度は、各地区の農業懇談会で依頼があった法面の草刈作業受託も可能となるよう、元気づくり支援金事業で、スパイダーモア（斜面草刈機）を導入し合理化組合で受託できる仕組みを整える予定です。	経済産業課
11	造林事業の促進による森林保全	村有林の計画的な森林整備	B	経営計画により、間伐事業等計画的な整備を図ることができました。令和3年度に策定される王滝村地域森林計画（10年計画）に基づき、特定間伐促進計画をはじめとする施業計画を定め、引き続き計画的な森林保全を進めます。	経済産業課
12	森林組合との長期施業委託	森林組合との協働による経営計画策定	B	森林経営計画により倉越・庄原・溝口団地等の民有林における保育間伐事業を実施しました。新たに導入された「森林経営管理者制度」とも併せ、長期的な施業計画を立てるとともに団地設定を行い事業実施を進めます。	経済産業課

13	間伐材の利用促進による自然エネルギーの有効活用	間伐材、支障木等の利用促進	B	支障木伐採等で発生した木材を薪材として村民の皆様へ有償提供しました。引き続き、自然エネルギーの活用を図るため村民の皆様への薪材の有償提供、さらには村外の皆様も活用できるよう検討いたします。	経済産業課
14	森林路網整備による低コスト木材の搬出	春山団地における路網の整備	B	春山団地において路網開設を行い、カラマツ材等搬出間伐を実施しました。今後、滝越地区（林道王滝線内）における共同施業団地設定や路網整備等木曾森林管理署とも協議し間伐事業の効率化を図るとともに低コストの木材搬出についても進めていきたいと考えます。	経済産業課
15	公共事業での木材利用の促進	村内土木工事での間伐材の利用	B	村内における林道及び村道における土留め工事においてより木材利用が図れるよう検討します。併せて、国・県補助事業も有効的に活用し財源確保に努めます。	経済産業課
16	除間伐材の利活用による新規起業支援（間伐材での利活用、除伐材は薪原木）	下流域市町村との連携による事業実施 木材を活用した新規起業 者支援及び育成	C	大府市教育委員会と連携事業として、王滝産ヒノキの間伐材を利用した大府市内小学校の木製ロッカー製作を実施しました。当村と大府市において行政と民間との広域的な協働事業を図ることができました。今後は、森林環境譲与税も有効活用し、新規起業のための支援や育成を図っていきます。	経済産業課
17	木材販売における「王滝」ブランド化の推進	王滝村産のヒノキ認証に向けた取組	C	大府市との協働事業における王滝産ヒノキを活用しての木製ロッカー製作では一定の成果が得られました。しかしながら、近年の市場における木材価格が不安定なことからブランド化が進んでいないのが現状です。より多くの皆さんに王滝産ヒノキの価値を知っていただくため、身近に触れることのできる製品開発など認証に向けた取り組みを行っていきます。	経済産業課
18	安定した特産品の生産を推進し、新たな特産品開発と販路拡大	すんきなど安定した特産品の生産	C	引き続き伝統的な特産品・郷土食のPR等に取り組みつつ、令和3年度に新たにオープンした観光局のECサイトなどを活用し販売促進を図ります。また、御嶽山ビジターセンター開業などを契機とし、新たな販路拡大を目指す事業者等を支援します。	企画・観光推進室
19	村内消費の拡大	村内プレミアム商品券の発行 1,950 セット 村外プレミアム商品券の発行 3,000 セット 冬季宿泊助成券の発行 4,000 セット	A	昨年度は、過去最大の経済対策を実施しました。（約1億円）引き続き、コロナ禍の経済状況を注視しながら、必要に応じてプレミアム商品券の発行など、村内消費につながる対策を講じます。	企画・観光推進室
20	特産品のブランド化を推進	特産品のブランド化を推進するための情報発信	D	引き続き木曾おんたけ観光局などと連携して、すんきや百草丸など既存の特産品の情報発信の強化を図ります。	企画・観光推進室
21	既存事業者の資金調達制度の適正運用	村小規模企業振興資金利用者への保証料・利子の補給 県制度資金利用者への保証料・利子の補給	A	令和2年度はコロナ禍によるセーフティネット認定等により、過去最大の資金調達の支援（利子補給）などを実施しました。今後も条例等に則って、適切な運用管理を継続して進めます。	企画・観光推進室

22	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進	観光事務所による状況把握、課題整理など	C	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進を支援を推進します。 商工会などと連携し事業承継の相談を受ける体制を整えます。	企画・観光推進室
----	------------------	---------------------	---	--	----------

(順調)	A	6	27.3%
(概ね順調)	B	9	40.9%
(努力を要する)	C	6	27.3%
(実績なし)	D	1	4.5%
合計		22	施策

4【子育て・福祉】子育て環境の整備を促進し子どもの声が響き渡る村をつくります

(1) 子育てにやさしい村づくり

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
ファミリーサポートシステムの構築	目標値	%								実現
	実績値		—	—	0	60	60	60	70	
	進捗区分			実績値なし	概ね順調	順調	順調	順調	順調	
	【備考】 ファミリーサポートシステムの構築の状況 [地域での相互扶助による子どもの一時預かりサービスであるファミリーサポートシステムを構築することが目標]	主な施策	平成 29 年度ファミリーサポートセンターを設置し、子どもの一時預かりの受入れ体制が整いました。 R2 年度にファミリーサポートの利用料について見直しを行い負担軽減を図りました。							
	進捗状況の分析及び今後の取組	R2 年度に、利用者の負担の軽減を図るため、利用料について見直しを行い、無料お試し券を取り入れ内容の見直しを図り、説明会を開催しました。 受入れの体制は整っているが、R2 年度も新規申込者もなく、利用者もいませんでした。 親睦や信頼関係を築くための交流会は、コロナの関係もあり R2 年度は未実施となってしまいました。 今後も交流会等回数を重ねながら、必要なときに安心して利用できるような体制づくりに努めます。 また、必要があれば内容の見直しを行っていきます。								
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
校外学習塾の開設	目標値	箇								1
	実績値	所	—	1	1	1	1	1	1	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
	【備考】 年度末における村内の郊外学習塾の設置数 [子供たちがその持てる力をより伸ばそうとする意欲を高めることができる施設の設置を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうたき寺子屋」の開設 ・「学校法人信学会」と連携した遠隔教育 							
	進捗状況の分析及び今後の取組	信学会と協定を結び同会のバックアップのもと「おうたき寺子屋」を開設することができ、ひとまず目標を達成することができました。 今後は、中学生を対象にした信学会コンテンツを活用した授業は、受講者からは好評であったことから、高校生も視野に入れた取組を実施していきます。								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(1) 子育てにやさしい村づくり

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	子育て家庭への経済的支援体制	子育て家庭への経済的支援体制	B	R2年度は、ファミリーサポート事業の個人負担について保育料に合わせた負担に変更し利用者の軽減を図りました。利用者はありませんでした。	福祉健康課 教育委員会
2	子育てサポート、子ども・子育て支援事業	保育所・未就園児の保護者向けに心理士による子育て講座を開催	B	保育所・未就園児の保護者向けに心理士による子育て講座（ペアトレ）、日常での子どもとの接し方などについて3回開催しました。（4回予定していたがコロナの関係で1減）。	福祉健康課
3	地域との連携による子育て支援体制の確立	地域との連携による子育て支援体制の確立	B	引続き今後も継続していきます。	福祉健康課
4	児童虐待防止に関する人権相談所・心配ごと相談所の利用促進	人権相談・心配ごと相談所の開設 要保護児童対策協議会の開催	B	各種相談日は毎月開催されているが、関係機関との情報と意識の共有及び連携を図り、一貫した支援が図られるように努めます。	福祉健康課
5	親子支援に関する関係機関の連携体制の整備	親子支援に関する関係機関の連携確保のための会議日程の確保や、学校と共催で赤ちゃんふれあい事業の開催	B	途切れない子育て支援体制構築のために、村内外の関係機関による会議を開催し、現状の課題とその対策について協議を実施しました。中学2年生を対象に保健師を講師として妊婦体験を実施し命の大切さを伝えることができました。（コロナの関係により赤ちゃんの抱っこ体験は人形のみで実施）	福祉健康課
6	未来の寺子屋プロジェクト	王滝寺子屋の活動	B	集落支援員及び信学会と連携して寺子屋活動を実施しました。	企画・観光推進室
7	特色ある保育所づくり	他園との交流事業	D	コロナ禍により三岳保育園との交流事業は出来ませんでした。 今後の園運営について、村の少子化の現状を踏まえた上で未就園児受け入れからの抜本的な検討を進めていきます。	教育委員会

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	6	86%
(努力を要する)	C	0	0%
(実績なし)	D	1	14%
合計		7	施策

(2) 教育環境の充実

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
タブレット端末 の整備	目標値	台								1人1台
	実績値		3	3	15	18	18	18	18	
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調	
【備考】 年度末における中学校 でのタブレット端末の 整備数 [中学生が各々に自分の 課題に応じた学習がで きるよう1人1台配置 することを目標]	主な施策	個人学習や調べ学習でのタブレット端末の活用								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	タブレット端末の整備に関しては、中学生1人1台の配置が完了しています。 今後は中学校編入後の小学校のみのタブレット等ICTを活用した教材研究 を引き続き行います。								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(2) 教育環境の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	情報教育環境の整備	タブレット端末等を活用したICT教育推進	A	中学校編入に向けて、今まで以上に三岳小・福島小や木曾町中等の近隣学校と連携が図れました。今後もより実践的なICT学習やその教材研究の活用等の研究と実践を推進していきます。	教育委員会
2	児童・生徒数にあった指導計画の作成	ALT講師による外国語学習を中心とした学習指導 個々の学びに応じた講師・支援自配置	A	村費講師・支援員の配置により児童生徒の個々の状況に合った指導が出来ました。又、ALT講師の外国語指導も計画通りに実施出来ました。中学校編入後は地域住民との共同学習の場を多く取り入れながら、小規模校としての特色を生かした教育を更に推進していきます。	教育委員会
3	学校支援ボランティアの育成	学校を核とした学校地域連携協働活動の充実化及び人材育成	B	より多くの村民が学校との協働活動や学校運営に参画できるような「学校運営協議会制度」の導入や学校と公民館共同での人材育成を図ります。	教育委員会
4	総合学習を基盤とした地域に根ざした学習プログラム作りの支援	児童生徒個々に応じた学習支援体制の充実 学校地域連携コーディネーターを交えたプログラムづくり	B	学校支援会議や教育支援会議において、引き続き情報共有を行い継続していくとともに、地域協働活動を多く取り入れ、個々の学びを助長させていきます。	教育委員会
5	他校との交流（近隣町村校、御前崎中学校等）	御前崎中学校との相互交流事業 三岳小学校との交流授業 ※令和4年度編入を見据えた取組み	A	木曾町中学校への編入に向けて、学校教職員を中心に関係校との交流機会を設けました。コロナ禍によるリモート開催など工夫をしながら実施しました。御前崎中学校との交流については、公民館も交えて今後の方向性を協議していきます。	教育委員会
6	学校修繕計画の実施	給食室改修工事、学校施設の諸修繕	A	学校施設の大規模改修については終了しました。今後は適正な維持管理に努めます。	教育委員会
7	小中学校の魅力発信事業	ホームページや広報を通じた教育活動の発信 公民館と連携した活動報告の発信	B	学校HPでの情報発信や、中学校編入については木曾町中学校との交流を「教育委員会だより」を通じて保護者へ情報提供しました。	教育委員会

(順調)	A	4	57.1%
(概ね順調)	B	3	42.9%
(努力を要する)	C	0	0.0%
(実績なし)	D	0	0.0%
合計		7	施策

(3) 高齢者等が安心して過ごせる村

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)	
医療施設(内科・ 外科)の維持	目標値	人								維持	
	実績値		1	1	1	1	1	1	1		
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調		
	【備考】 年度末における村診療 所の医師の数 [村診療所の維持を目 標]	主な施策	常勤医師の雇用								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	常勤医師1名を確保できているため、村診療所が維持され、順調に運営されて います。 引き続き常勤医師の確保に努めていきます。									
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)	
医療施設(歯科) の維持	目標値	人								維持	
	実績値		1	1	1	1	1	1	1		
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	順調	順調		
	【備考】 年度末における村歯科 診療所の歯科医師の数 [村歯科診療所の維持 を目標]	主な施策	J Aとの歯科医師派遣委託								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	J Aと歯科医師の週2日派遣を委託契約していることから、村歯科診療所が 維持され、順調に運営されています。 引き続き、歯科診療所が維持できるよう努めていきます。									
指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)	
特定健診受診率	目標値	%								60.0	
	実績値		36.8	42.1	41.8	41.6	38.3	40.0	33.3		
	進捗区分			順調	順調	順調	努力を要する	努力を要する	努力を要する		
	【備考】 村民の当該年度におけ る特定健診の受診率 [厚生労働省の特定健康 診査等基本指針におけ る市町村国保の目標値 を目標]	主な施策	特定健診								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	R2年度受診率の低下については、次の要因が考えられます。 ・新型コロナウイルス感染症の影響 (県内市町村で受診率が低下傾向にあっ た。) ・対象者が後期高齢者へ移行したことなど 今後は、R2年度に行ったアンケート等も利用しながら、未受診者への呼びかけ を行っていきます。									

指 標 名	年度	単 位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
生活習慣の改善 意識	目標値	%								増加
	実績値		65.5%	—	—	63.3%	—	—	—	
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	概ね順調	実績値なし	実績値なし	実績値なし	
【備考】 運動や食生活等の改善 をしてみようとおもう 人の割合（基準値 H26 年）	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・特定検診結果返却の村内各地での実施し、保健師の指導が必要な方には個別面談を定期的に行い、生活習慣（食生活）等改善がみられました。 ・毎月定期健康相談を開催し、参加者の健康面や食生活を継続的に支援を実施しています。 ・今後も、引続き事業を実施しながら、参加者を増やして行けるように努めていきます。 								
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>R2 年度末の新年度健診調査票と一緒に生活習慣病のアンケートを実施し、R3 年度中に集計をして、各事業や個人等へ繋げられるようにしていきます。</p> <p>特定健診の結果や医療費等の分析により、初期段階で生活習慣の見直しができるように取り組んでいきます。生活習慣の早期改善につながるような啓発活動の取組みや必要に応じた継続的な支援を実施していきます。</p>								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 高齢者が安心して過ごせる村

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	王滝村データヘルス計画、王滝村健康づくり計画に基づく「健（検）診を受ける・体を動かす・健康に食べる」の3つを柱とする健康増進施策の実施	データヘルス計画の策定 生活習慣病・がんの早期発見、早期治療のため、検診（健診）機会の拡大を実施	B	住民の健康維持、生活習慣病の予防、疾病の早期発見、早期治療に繋がるように、村で健診（特定健診、各種がん検診など）を受ける機会の確保はできたが、今後は未受診者への声かけなど実施するように努めます。	福祉健康課
2	医師の安定確保	常勤内科医師の確保及び 歯科診療業務委託による 診療所の運営	B	引き続き、医師の安定確保に努め、診療所を維持運営していきます。	福祉健康課
3	往診・在宅医療の遂行	往診、在宅医療、介護サービスの実施	B	希望者への往診、在宅医療の実施をしていきます。歯科訪問診療は通院困難な患者さんに対して、今後も計画的及び継続的に実施し、口からの健康を支援していきます。介護サービスについては、必要なサービスが受けられるよう地域包括支援センターと診療所等関係機関と連携を図りながら引き続き実施していきます。	福祉健康課
4	地域医療機関、保健事業、福祉との連携	包括支援センターを中心に ケースの支援や課題などについて必要に応じ福祉、保健事業、医療機関の担当者間で情報共有及び連携を図りながら実施	B	包括支援センターを中心にケースに応じて関係機関との情報共有及び連携を取りながら実施しています。今後も引き続き、関係機関で連携を図りながら実施していきます。	福祉健康課
5	医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築	地域支援事業全般 介護予防日常生活支援総合事業の充実（各種教室や訪問活動）や包括的支援事業及び任意事業（地域ケア会議や個別ケースケア会議、生活支援体制整備など）の充実	B	事業委託先の村社協と連携して、住民に必要なサービスを提供できるように取り組んでいます。今後も、「地域支援事業」の充実を図ります。また、地域ケア会議や個別ケースケア会議などを活用し、情報収集や課題の整理を行い、他機関との連携を進め、必要なサービスの創出や既存サービスの維持向上ができるよう取り組みます。今後、介護予防事業の交付金が減額される見通しの中、適宜、要綱等の見直しを図り、効率的に事業が行えるように考えていく必要があります。	福祉健康課
6	地域包括支援センターの充実	包括的支援事業及び任意事業 専門職の配置（保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員）による高齢者への総合相談・ケアマネジメントの実施など	B	住民から寄せられる困りごとの相談に対して、専門職を中心に対応しています。今後も、介護や福祉、健康、医療などさまざまな分野から総合的に高齢者とその家族を支える機関として地域の窓口となるよう、適切な機関と連携し、必要なサービス等へ繋げられる組織づくりに取り組みます。課題としては、保健師（専門職）不在によるご本人やご家族を支える連携不足が挙げられます。	福祉健康課

7	高齢者世帯、一人暮らし高齢者が安心して暮らせるための支援対策	生活支援体制整備事業 地域住民参加による生活支援の新たな体制づくりの基盤となる「生活支援ネットワーク会議」と「地域支え合い推進会議」を設置し、地域住民との意見交換などを実施	B	「生活支援ネットワーク会議」と「地域支え合い推進会議」を開催しました。また、地域支え合い推進会議の専門委員会では、地域の様々な課題の解決に向けて、取り組んできました。 今後も、生活支援ネットワーク会議や地域支え合い推進会議などの委員と連携し、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるよう取り組めます。	福祉健康課
8	認知症になっても安心して暮らすことができるよう、地域支援対策の推進	認知症総合支援事業 認知症地域支援推進員の配置・初期集中支援チーム会議の開催による認知症サポートの充実や啓発など	B	認知症サポート医や認知症地域戦推進員との緊密な連携の推進（必要に応じて会議を開催）を行いました。 各種教室での認知症講座を定期的で開催し、早期発見・対応などチームアプローチを実施し、認知症疾患医療センターや主治医との連携を継続していきます。	福祉健康課
9	関係機関との連携による支援体制	情報の共有やネットワークづくりを図るため、各種担当者会議へ出席	B	木曾圏域自立支援協議会の部会や各種会議に担当者が出席して、郡内の情報共有やネットワークづくりを行ってきました。今後も更なる支援体制構築のため、会議への出席や関係機関との情報共有を行っていきます。	福祉健康課
10	地域生活への移行、就労支援	随時関係機関と連携を図りながら必要な支援へ繋げていく	B	関係機関と情報共有をする中で、支援会議の開催等を行い支援を進めることができました。 要支援者とのつながりを保てるように、各職員が定期訪問等を実施してきました。しかし、保健師不在が大きく影響しており、潜在的なケースについての把握が難しく、つながりがもてていないのが現状です。 また、今までに、困難ケースへの対応事例が少なく、困難ケースが増えた場合を想定して、他市町村に事例を聴くなどして対応できる体制づくりに努めます。 今後、保健師募集を進める一方で、関係機関と情報共有を密にしながら連携して支援が図られるよう取り組んでいきます。	福祉健康課

(順調)	A	0	0%
(概ね順調)	B	10	100%
(努力を要する)	C	0	0%
(実績なし)	D	0	0%
合計		10	施策

(4) 生きがいをもって暮らせる村

指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
何らかの学習活動に従事する割合	目標値	%								43.6
	実績値		28.8	30.9	32.0	33.0	38.0	32.0	35.0	
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	努力を要する	概ね順調	概ね順調	概ね順調	
	【備考】 当該年度における公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 100%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動及び地域づくり実践活動への参加促進 ・公民館まつり及び村民運動会等、村民総参画による諸行事の推進 ・地域間交流事業への参加促進 							
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合は伸び悩んでいます。</p> <p>より多くの村民に活動への参加を促すため、公民館のみならず学校や関係機関との連携を一層すすめるとともに、村民参画による地域づくりに繋がるよう取り組んでいきます。</p>								
指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R2年度	目標 (R2年度)
学びの成果を村づくりに生かす活動に従事する割合	目標値	%								30.1
	実績値		13.4	17.2	20.0	25.0	28.0	28.0	29.0	
	進捗区分			順調	概ね順調	概ね順調	順調	順調	概ね順調	
	【備考】 当該年度における育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 60%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の推進 ・スポーツ活動における指導者の育成 ・公民館活動及び地域活動における実践活動 							
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合は、指導者等育成の取り組みにより順調に推移しています。</p> <p>引き続き、指導者養成などの人材育成に取り組みながら、学びの成果を地域の活性化に生かす活動を進めます。</p>								

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(4) 生きがいをもって暮らせる村

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	誰もが参加する各種講座やスポーツ、レクリエーション活動の実施	ニコニコ軽体操教室の拡充 ニュースポーツなどの紹介・実践 新規教室・事業の立ち上げ	A	ニコニコ軽体操教室は、指導者を中心に内容の検討、住民へのアプローチに力を入れ、参加者の増加と開催回数の増加になりました。 公民館まつりの際にボッチャの紹介等を行いました。 新規教室開設により新規公民館利用者が増えた。	教育委員会
2	コーディネーター、スポーツ推進員等人材の育成	コロナ禍での学校支援体制の検討	B	検討課題が多い中、学校と地域をつなぐ方法や学校支援の新しい方策を検討しました。 会議や打ち合わせの機会を短時間で回数を増やして行いました。 来年度以降も学校のコミュニティルームの利活用も含めて検討していきます。	教育委員会
3	社会教育施設等の計画的な修繕	公民館施設（本館・分館）の計画的修繕	B	公民館等老朽化が進んだ施設について長期計画を基に計画的な補修を行います。	教育委員会
4	公民館交流事業の推進	地域間交流活動による学習活動の拡大	D	コロナ禍において、検討を重ねましたが交流活動は未実施となりました。	教育委員会
5	公民館だより等広報の発行	公民館だよりの発行（月1回）	A	公民館だよりの発行を月1回発行しました。	教育委員会
6	放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の充実化	放課後子ども教室事業の継続 子ども育成会と連携した家庭教育支援	A	放課後子ども教室の継続運営、内容や対応検討会を実施し安全管理員の情報共有を行いました。	教育委員会
7	村民参画による運動会、公民館まつりの運営会議の充実化	村民ふれあい運動会 公民館まつり	A	村民運動会は雨天の為、学校のみで開催でしたが開催に向けて実行委員会や検討会を重ねコロナ禍でもできる運動会を目指しました。 公民館まつりは、展示や屋外での催し物を中心にコロナ禍でできる方法で行いました。	教育委員会
8	新村誌の編纂	村誌「歴史編」発刊に向けた編集業務	D	「歴史編Ⅱ」の発刊に向けた編纂作業を行いました。 令和3年度で村史編纂事業は完結となりますが、当初計画されたとおりの「民族編」までの発刊とはなりませんでした。	教育委員会
9	御嶽山岳歴史文化会館の充実	食文化の継続を中心とした講座の実施や郷土食の研究	D	文化会館で地域おこし協力隊による郷土食の商品開発や販売を行う予定でしたが、事業の採算性が非常に低い理由から断念する結果となりました。今後は施設管理区分を見直した上で有効活用を図ります。	教育委員会
10	活用するための人材育成等体制整備	文化施設の管理運営	D	人材育成を伴うような御嶽山岳歴史文化会館の適正な管理運営にはつながりませんでした。 今後は施設管理区分を見直した上で、有効活用を図ります。	教育委員会
11	郷土食（スンキ、ほう葉巻、万年鰯等）の作り方教室等の開催	2ヶ月に1回程度の郷土食講座を計画	B	コロナ禍において教室の開催が懸念される時期があった為、年3回の開催になってしまいました。	教育委員会

12	森林鉄道の保存、歴史的意義の伝承	森林鉄道の会との連絡調整及び保存協議	D	松原スポーツ公園の線路敷の修繕など保存に向けた協議を継続していきます。民間ボランティアの活動も取り入れ協議していきます。	教育委員会
13	インターネット、広報等での周知	「村誌編纂室だより」及び「公民館だより」による周知	B	編纂作業の遅れから「村誌編纂室だより」は発行しませんでした。毎月の「公民館だより」による村民向けに情報発信は継続しています。又、村HPやケーブルテレビ等による村外発信も行っています。	教育委員会

(順調)	A	4	30.8%
(概ね順調)	B	4	30.8%
(努力を要する)	C	0	0.0%
(実績なし)	D	5	38.4%
合計		13	施策

5 王滝村総合戦略に含まない施策（長期振興計画にのみ記載されている施策）

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	地方債を財源とする事業の必要性の検証	令和2年度までの財政シミュレーションで実質公債比率及び将来負担比率の推計を行っている	B	防災無線デジタル化整備や御嶽山施設整備、橋梁修繕等の必要とされる事業へ交付税措置率の高い起債を利用していきます。	総務課
2	持続可能な定員管理計画の策定	定員管理計画の策定	B	計画に基づいた定員管理を行います。公務員の定年延長が予定されているため修正が必要です。	総務課
3	情報化機器の充実	端末の計画的更新を実施	B	計画に基づいた情報機器の更新を図ります。	総務課
4	定員管理と事務の効率化	定員管理計画の策定	B	計画に基づいた定員管理と事務の適正化を行います。	総務課
5	人事評価制度の実施	人事評価制度の運用	B	人事評価の実施を今後も行います。	総務課
6	公会計制度の導入（財務諸表の作成）	村の会計全てと広域連合などを合わせた連結決算まで作成	B	継続して財務諸表の作成を行います。今後は財務諸表や固定資産台帳の活用を図ります。	総務課
7	行政評価システムの導入	未導入	D	費用対効果の検討が必要です。	総務課
8	計画的車両配置整備事業	適切な公用車の配置 計画的な公用車の更新	B	センター線の巡回バス更新がDMO事業により図れました。当面、更新の必要はありません。	総務課

(順調) A	0	0.0%
(概ね順調) B	7	87.5%
(努力を要する) C	0	0.0%
(実績なし) D	1	12.5%
合計	8	施策